

令和3年度 学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名 （ 大分県立津久見高等学校 ）

1 学校の情報

(1) 学校規模

全校生徒500名 1学年6クラス

(2) 分掌の位置づけ

生徒指導防災教育コーディネーター 1名

防災教育実践委員会委員 15名

(3) 地域環境

本校は、南海トラフ巨大地震により発生する津波の浸水域とされており、リアス式海岸であることから最大3～5m程度のやや高い津波高が想定されている。平成29年台風18号では津久見川と徳浦川の氾濫による市街地の浸水や土石流等の土砂災害の被害を経験している。豪雨発災時に、校内の避難はもちろん、広範囲で多様な交通手段の通学・通勤から生徒・教員の身を守るために、帰宅経路や帰宅手段、学校待機の判断や避難所運営などを検証していくのに適した立地環境である。





2 取組のポイント

本校は、緊急災害時には地域の避難所となることから、学校と地域の防災を確立していくために、防災教育コーディネーター（中核教員）を中心に取組みを行う。



- ① 生徒の防災リーダーを育成し、防災に対する意識向上につなげていくために、先進校訪問や公的機関視察で防災教育の取組についての調査を行い、その結果をまとめ還流報告を行う。
- ② 下記の科目で防災に関する授業を行い、災害についての実習・調査・研究を行い発表する。
 - ・ 1年生の総合的な探究の時間：「災害図上訓練」(DIG)を行い、津久見市中心部における津波災害リスクを想定するとともに、有効な対策を考える。
 - ・ 3年生総合選択家庭科：「災害時の食事づくり」
 - ・ 毎年作成する「学校安全計画」や「危機管理マニュアル」とともに「防災に関する年間指導計画」を立案し、大津波時の避難場所、避難経路、帰宅判断など避難訓練を通して、生徒、職員に意識づけをする。

3 具体的な取組

実施時期			実施事項	内 容	関係者等
月	日	曜			
4	28	水	第1回避難訓練	避難場所の確認（第2グラウンド、屋上） 	1年生（154名）
5	12	水	モデル校打合せ	学校安全・安心支援課との打合せ	教頭、防災担当
	中旬		防災リーダー決定	防災リーダーの選出（立候補）	
6	30	水	第1回実践委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要の説明 ・防災教育全体計画・年間計画の説明 ・実践に係わる意見交換 （参加者） 防災・環境教育ラボ代表、津久見市消防署、大分海上保安部、 県教委学校安全・安心支援課、防災関係職員	
7	19	月	第1回防災リーダー研修会	学校安全・安心支援課より講師を派遣していただき、東日本大震災について学習を行った。 	学校安全・安心支援課（講師） 防災リーダー
	26	月	防災教育モデル実践事業検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・防災モデル校の実践状況報告 ・専門家の方々からのアドバイス 	学校安全・安心支援課他（14名）
8	6	金	第2回防災リーダー研修会	東北視察事前学習、打合せ	学校安全・安心支援課（講師） 防災リーダー （2名）
	17 ～ 19	火 ～ 木	東北視察	新型コロナウイルスのため中止	

	23 ～ 25	月 ～ 水	中国地方視察	新型コロナウイルスのため中止	
10	15	金	第1回防災学習	総合的な探究の時間で東日本大震災についての学習 	学校安全・安心支援課（講師） 普通科1年生 （35名）
	16	土	県内視察	東北視察・中国地方視察の代替で、日田市天ヶ瀬においてフィールドワーク 	防災リーダー （4名）
	30	土	津久見市大津波避難訓練	国土交通省主催の大津波訓練であったが、新型コロナウイルス感染防止のため学校紹介映像のみの参加	映像のみ
11	5	金	第2回防災学習	総合的な探究の時間で東日本大震災についての学習、災害図上訓練(DIG)の説明 	学校安全・安心支援課（講師） 普通科1年生 （35名）
	12	金	第3回防災学習	総合的な探究の時間で、災害図上訓練(DIG)の実践 	防災・環境教育ラボ代表 学校安全・安心支援課（講師） 普通科1年生 （35名）

				
19	金	第4回防災学習	<p>総合的な探究の時間で、災害図上訓練(DIG)で実践したことを発表</p> 	<p>防災・環境教育ラボ 代表 学校安全・安心支援 課（講師） 普通科1年生 （35名）</p>
12	2	木	<p>第2回避難訓練</p> <p>地震に伴う大津波を想定しての訓練 第2グラウンドへ避難 防災リーダーが誘導役として活躍</p> 	<p>全校生徒、全職員</p>
20	月	総合選択D「栄養」実習	<p>災害時にも役立つ！こだわりの「お好み焼き」を考えよう！</p> 	<p>3年栄養選択者 （18名）</p>

					
23	木	総合選択C「子どもの発達と保育」実習	たまごボーロを作ってみよう！ 	3年子どもの発達と保育選択者 (15名)	
2	8	火	第3回避難訓練	緊急地震速報端末「地震の見張り番」を使用したシェイクアウト訓練	全校生徒、全職員

4 取組における成果と課題

(1) 成果

- ・防災リーダーは、生徒会が中心となり立候補で発足させることができた。
- ・避難訓練は3回行ったが、全校生徒、全職員が積極的に取り組み、防災への意識づけができた。
- ・12月に行った第2グラウンドへの避難訓練では、防災リーダー全員が誘導を行い迅速な避難ができた。
- ・総合的な探究の時間の災害図上訓練(DIG)では、自分の学校の地域ということもあり、テーマにそって一人ひとり真剣に取り組めた。
- ・家庭科実習では、それぞれの班が具材を考え、思考を凝らしたものを作り上げることができた。

(2) 課題

- ・8月の東北・中国視察の中止。(新型コロナウイルスの影響)
- ・地域住民・小学生・中学生との一斉避難訓練の実施方法。
- ・防災リーダーの防災士資格取得。
- ・新型コロナウイルスによる活動の制限。

5 今後の取組の見通し

今年度取り組みをしたことを、次年度以降も継続していく考えである。防災モデル校ということで設置していただいた、緊急地震速報端末「地震の見張り番」を活用し、大地震・大津波に備え訓練をしていきたい。今後予想される「南海トラフ巨大地震」では、津久見市は確実に2 m～5 mの津波が来るとハザードマップからも予想されている。このことから、常に災害に備え防災意識を高めておく必要がある。

防災教育コーディネーターを中心にし、学校全体で防災に取り組める組織にし、継続して活動していきたい。